



野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



秋の白石干拓地・オジロトウネン&クロハラアジサシ (撮影：加藤芳隆さん)

野鳥さが 255号 主な内容

- 役員会報告-----2ページ
- 事務局便り-----4ページ
- ネイチャーポジティブと野鳥の会の役割-----5ページ
- 各地の探鳥会報告-----9ページ
- 皆さんからのおたより-----13ページ
- 皆さんからの野鳥&自然・生きもの情報-----16ページ
- 近隣地区の観察会情報&有明海の満潮時刻-----20ページ
- 探鳥会会場までの案内-----21ページ
- 探鳥会などのお知らせ (2024年12月~2025年1月) -----22ページ



役員会報告

(事務局: 島田 洋)

【日 時】 2024年10月13日、11月17日

【出席者】 10/13: 12名 11/17: 12名

【議事内容】



(1) 日本野鳥の会「連携団体全国総会」について

- ① 佐賀県支部からは宮原支部長が出席した。
- ② ここ50年間で地球上の生物は激減した。73%の減少である。
- ③ 全国の連携団体は、ハラスメントなどそれぞれ多様な問題を抱えている。

(2) コアジサシについて

- ① 来シーズンもコアジサシが営巣するのは間違いないので、強力な営巣保護活動を行う。見守り活動は営巣が始まったらすぐに開始し、佐賀県支部会員全体に協力を呼びかける。
- ② 営巣地には、カキ殻をたくさんまき、営巣しやすくする。デコイの数は減らし、シェルターの設置は十分に行う。
- ③ 天敵対策をしっかり行う。集団カラス対策は、猟友会に協力をお願いする。
- ④ 営巣地内に恒久的なプレハブ小屋を設けるのは佐賀市が許可しない。建てるなら、年ごとに建てる必要がある。予算の問題が生じる。

(3) コウノトリについて

- ① 白石町のコウノトリは今年の巣の近くに現在、親2羽と幼鳥1羽が確認されている。
- ② コウノトリの営巣・繁殖の見守りは「コウノトリの会」が主に担当する予定。佐賀県支部はこの活動を支えていく。
- ③ コウノトリの保護に役立てるため今年も助成金を申請している。

(4) ブッポウソウについて

- ① 富士町や三瀬村に巣箱をかけたが、ブッポウソウの営巣はまだない。
- ② かけた巣箱の多くが老朽化して破損しているので修繕が必要。

(5) カササギについて

- ① 若鳥の群れを全く見かけない。
- ② 佐賀大学の学生が研究のためカササギのねぐらを探しているが、なかなか見つからない。

(6) ビオトープについて

- ① 佐賀市東与賀町にビオトープを設けた。WWF（世界自然保護協会）、佐賀大学、行政などと連携してビオトープを保全していく。
- ② ビオトープでは、様々な動植物の生息が確認されている。植物では、トチカガミ、



イトトリゲモ、ミズオオバコなどの希少な植物が確認された。

水生昆虫もコウチュウ目（甲虫目）は10種、カメムシ目は8種が確認され、ヤゴも生息確認。

- ③ これからカラスガイ、ツチフキ、カワバタモロコ、ドジョウなどを入れる予定。
- ④ 敷地内に物置小屋を設置した。草刈り機などを常備する。草刈り機の取り扱い方はオイルの管理など慣れた人の指導が必要ではとの意見がでた。
- ⑤ 周辺の農家からは特別目立った反応はない

(7) 佐賀市野鳥調査について・・・冬の調査は来年1月にする。最低3回の調査をする。

(8) 九州沖縄ブロック大会について

- ① 来年の5月10～11日に九州沖縄ブロック大会を開催する。
- ② オークションに興和（双眼鏡やスコープのメーカー）が出品してくれる予定。

(9) 支部報について・・・より面白い支部報にするために役員や会員にも持ち回りで記事を書いてもらうようにしたい。

(10) その他、探鳥会の会場、今後の探鳥会などについての協議を行った。

「ハラスメント」

「ハラスメント」という語句を近年よく耳にするようになりました。

「他人の人権や尊厳を侵害するような言動や態度」がハラスメントです。

ハラスメントにはセクハラ・パワハラ・モラハラがありますが、私達野鳥の会には無縁のことと考えていました。ところが、今年度の「財日本野鳥の会連携団体全国総会」で、某支部より探鳥会時に起きたセクシャルハラスメントの事例報告がありました。

報告を受け、その場で財団より「他支部でそのような事があるか？」と出席者に質問されたところ、なんと3割強の支部でセクハラ・パワハラが起きていることが判明致しました！私達の佐賀県支部で、その様な事例は、無いと信じてますが！

ハラスメントは、加害者側は「悪気無く無意識」でも被害者は大変不快な思いを強いられます。皆さん「親しき中にも礼儀あり」基本に立ち返りましょう。

そこで、間違ってもハラスメントが起きないように以下の決め事をします！

「探鳥会の際に、迷惑行為をされた会員（非会員含む）は今後一切探鳥会参加をお断りします（野鳥の会除籍もあり）。」

このような事が無い様、皆仲良く野鳥を愛で楽しみましょうネ♪

尚、ハラスメントを受けた・見掛けた方は、支部長 宮原明幸 or 事務局 八木ひとみ

にご相談ください。事実関係調査の上、対応致します。

支部長 宮原明幸





(1) ようこそ 佐賀県支部へ!・・・支部入会者情報

支部報 254 号でお知らせした以降の入会者情報をお知らせいたします。

9 月入会者 1 名 (家族会員) 11 月入会者 3 名 (うち家族会員 2 名)

佐賀県支部の会員は現在 **281 名** です。

新入会員の皆様! 積極的に参加してください。楽しい仲間が待っていますよ!
また、入会はしたけれどもまだ一度も参加されていない方もいらっしゃいます。
是非いらしてください。お待ちしております!

『観察会に参加できないから・・・』とか『高齢だから・・・』との理由で退会される方もおられます。私たち野鳥の会は鳥や自然を愛でる趣味の会ですが、同時に野鳥を大切にする活動を通しどんどん失われていく自然を守る自然保護団体でもあります。

私たち一人一人の数が! みんなの出し合う会費が! 自然を守る『力』になります!

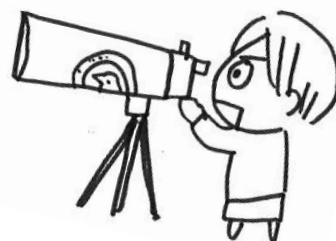
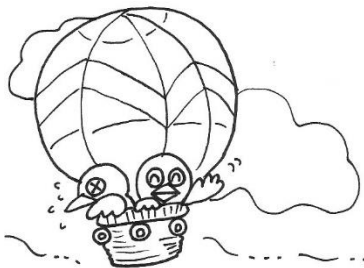
「会員」でいることが「自然保護に協力していること」になるのです。

お願いします。経済的にご負担でなければ会に籍を置き続け、今残る自然を次の世代へ引き継ぐ『力』を貸してください!!

みなさまの周りに花や昆虫など自然の生き物に興味・関心をお持ちの方はいらっしゃいませんか? 是非お誘いください。野鳥の会は「いつでも入会 OK」です。

日本野鳥の会とは

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、野鳥や自然の素晴らしさを伝えながら、自然と人間とが共存する豊かな社会の実現を目指し、活動を続けている自然保護団体です。





ネイチャーポジティブと野鳥の会の役割

(支部長:宮原 明幸)

日本野鳥の会連携団体全国総会で、財団顧問の足立直樹氏より「ネイチャーポジティブを目指して、日本野鳥の会に期待されること」と題した興味深い話しがありました。時を同じくしてナショナルジオグラフィックにも関連する記事がありましたので、抜粋して紹介します。

NHKで「スズメが“絶滅危惧種”相当に減少」と言うセンセーショナルな放送がありました。(財)野鳥の会のホームページには、ツバメが10年前より40%減少したとの記事があります。佐賀県ではカチガラスが激減し10年後の絶滅が危惧される状況です。ナショナルジオグラフィックのニュースでも「里山の身近な鳥や蝶が急減、絶滅危惧種並みの減少率も、全国調査」との記事が載りました。

環境省と日本自然保護協会の「モニタリングサイト1000里地調査」の結果です。

※ 佐賀県支部は「モニタリングサイト1000里地調査」に参加協力しています。



評価対象の鳥類 106 種のうち 15%の 16 種の個体数が年間 3.6%~14.1%、急速に減少していました。最も減少率の高かったのは、戦前は佐賀にも居て今は既に絶滅したオナガ 14.1%、佐賀でも普通種で橋桁の裏等で繁殖しているイワツバメ 12.1%、巨勢川調整池でお馴染みのオオタカ 5.2%、最も身近かなスズメ 3.6%です。

年間減少率が 3.5%を越えれば絶滅危惧種Ⅱ類に認定されます。

※オナガの 14.1%は単純計算で 30 年後には個体数が限りなくゼロとなります。

これらの身近に見られる普通種が急激に減少する要因は、里山の荒廃・気温上昇の気候変動・外来種の影響等によるものと言われています。

生息環境別で見ると・・・グラフが示す通り森の鳥は横這いなのに、里山の鳥、農地草地の鳥、つまり「開かれた開放的な環境」で減少しています。まさに私達の生活場所で起

きていることです。

これらの場所では「里山の荒廃やシカの食害」「稲の害虫駆除に使われる農薬の影響」が考えられるとニュースでは記載されています。

※ 私達は野鳥の会ですので「蝶」の激減の話は割愛しますが、昆虫は鳥類以上に危機的状況です。

佐賀では、里山の荒廃は進んでいます。シカは入ってきていません。鳥の減少は農薬が一番大きな要因だと考えられます。

ホームセンターへ行けば、売り場の良く目立つ場所に除草剤を山積で販売しています。

農家は高齢化を言い訳にして、安易に農薬に頼ります。

「それで、部外者が農家を責めるのか！」といった声のあることは承知していますが…

1990年ころにミツバチが大量失踪した「蜂群崩壊症候群」多発事件が話題になりました。これはネオニコチノイド系農薬によるものです。今でも、強い毒性がある殺虫剤のネオニコチノイド系農薬は使い続けられています。

※ 欧州では既に使用禁止となっています、除草剤も同様です。

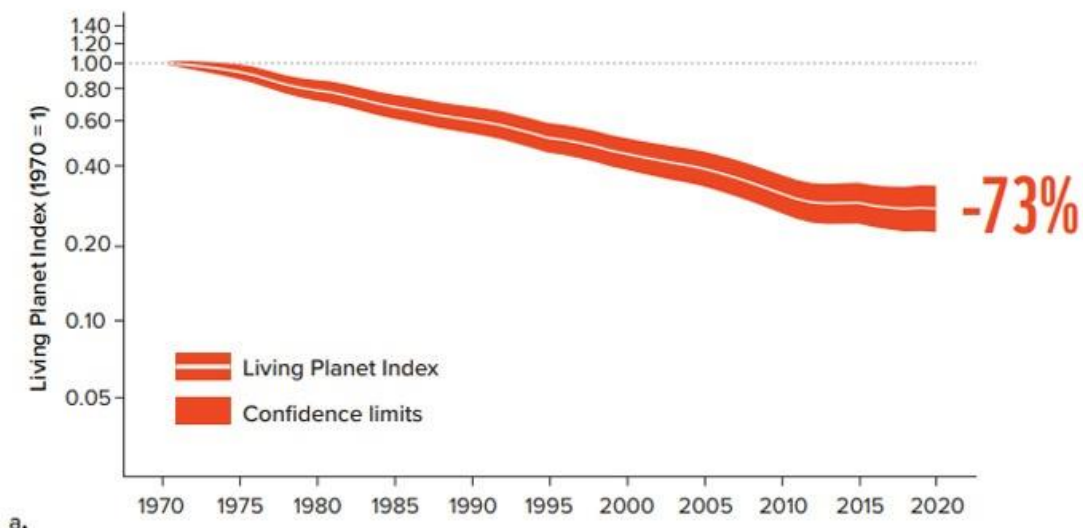
では、ミツバチが消えればどうなるのでしょうか。

「ミツバチが消えると4年で人類滅亡する!？」植物は昆虫やコウモリ、鳥によって受粉の手助けをしてもらいます。その中でミツバチは受粉の貢献度一番の昆虫です。

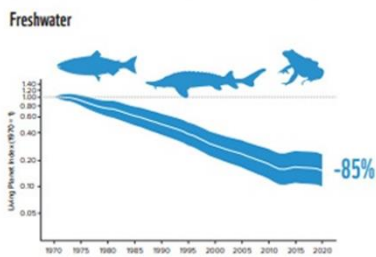
ミツバチが居なくなれば全世界での経済損失は20兆円と考えられていますし、食料難も控えています。世界で生産される作物の3分の1がミツバチによって受粉しているからです。農業は稲作だけではありません野菜・果物も大切な生産物です。稲農家の生産性追求が他の野菜や果物農家を犠牲にすることに、合理性はありません。

ここからはネイチャーポジティブについての話しです。下の図はWWF（世界自然保護基金）が世界全体で1970年から2020年までの50年間の35,000個体群の群れの規模や個体数の変化の傾向を「生きている地球指数（LPI）」として数値化したものです。この報告書では50年間で73%が減少したという深刻な状況が分かります。

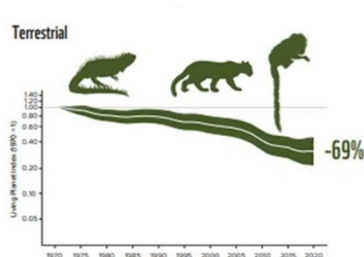
Global Living Planet Index



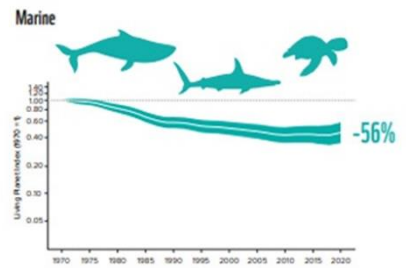
a.



淡水域 85%



陸域減少 69%



海水域 56%

生息環境別 LPI では、河川や湖沼、湿地などの淡水域の減少率が 85%と最大。ダム建設など移動経路を遮断するような生息地の悪化で、淡水魚や両生類が非常に高いストレスを受けています。陸域は 69%、海水域は 56%の減少率と、いずれも大きく減少しています。

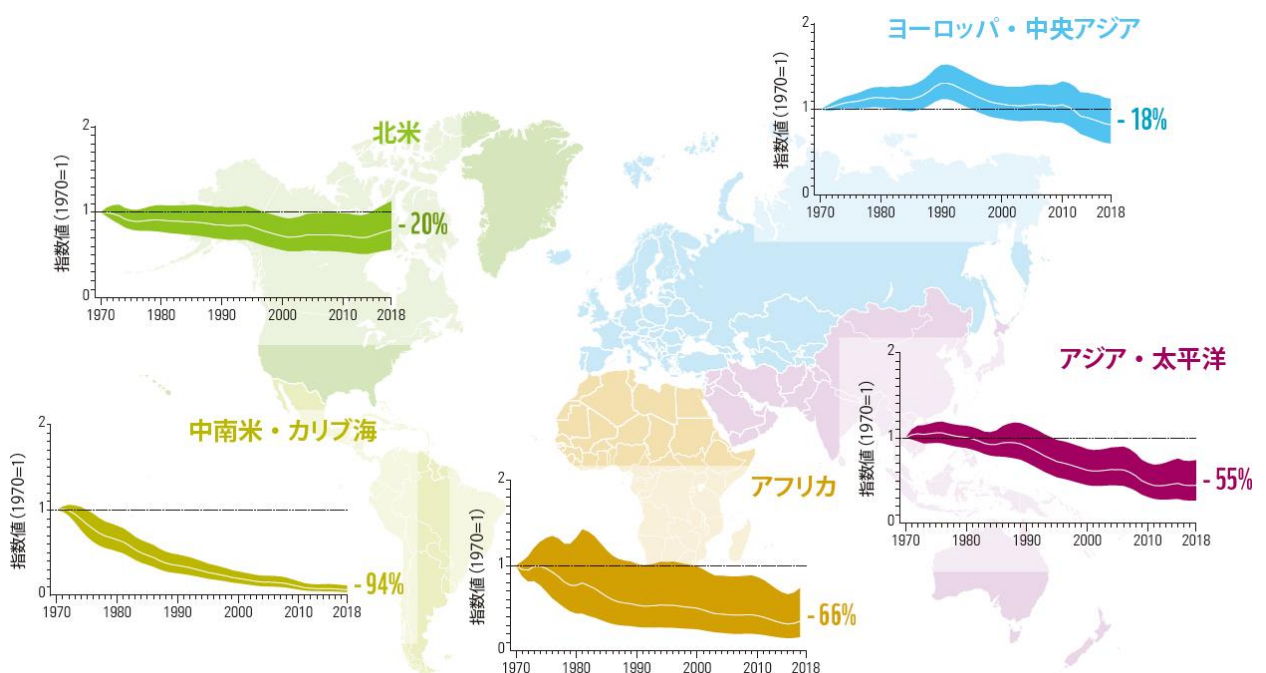


図4 IPBESの分類に基づいた地域別の「生きている地球指数」(1970年～2018年) 出典: WWF/ZSL,2022³

地域別で最も減少したのは中南米・カリブ海の 94%で、アフリカが 66%。日本を含むアジア太平洋地域は 55%。いずれも生息地の劣化や喪失が脅威になっています。

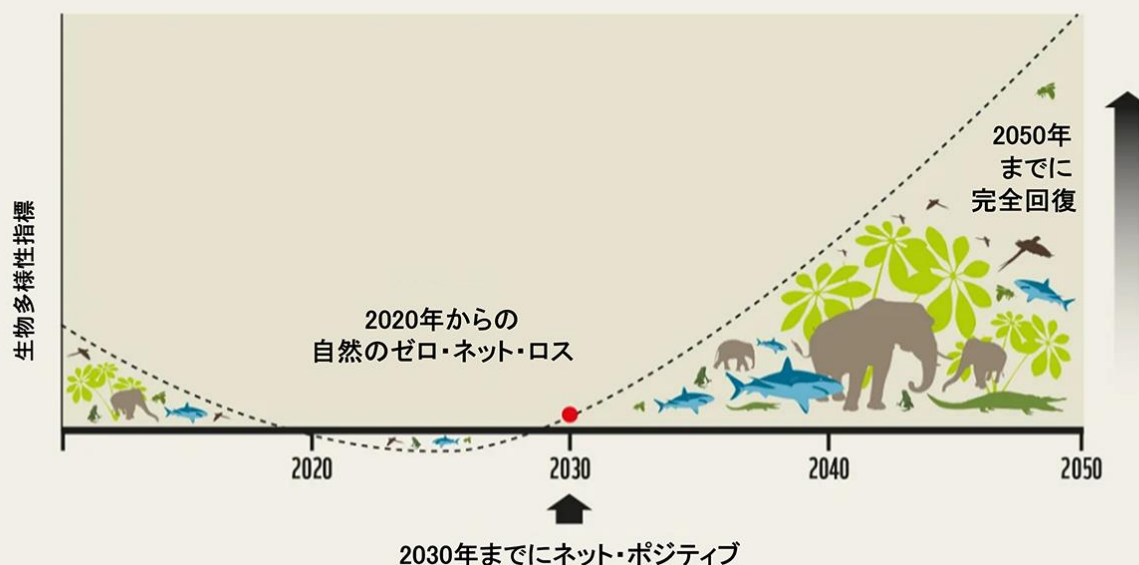
アマゾンの熱帯雨林は地球上の生物種の 10%が存在し、2500 億～3000 億トンの炭素を蓄えています。「気候変動と森林破壊はアマゾンの降雨量の減少をもたらし、熱帯雨林を焼失させ、自然回復は不可能な転換点に導こうとしている」としています。

「危機は野生生物と生態系を極限まで追い詰めており、地球の生命維持システムの存在を脅かし、社会の不安定化を招く転換点に直面している」と指摘しています。

自然を破壊するとは、紛争、飢餓、病気が悪化し、貧困、不平等、気候危機を助長し、持続可能な開発や文化遺産、国内総生産 (GDP) が損なわれることに繋がります。

これが現実です。このまま推移すればお先真っ暗！ 私達の孫子の時代に待っているのは地獄です！

自然のための世界目標：2030年までのネイチャーポジティブ



一縷の望みは COP16 の「ネイチャーポジティブ」です。

ネイチャーポジティブとは「自然生態系の損失を食い止め、回復させていくこと」を意味する言葉です。

※ COP は主に“気候変動に関する国際連合枠組条約の”締約国会議のことです。

京都議定書や気候変動枠組条約とか聞いた事があると思います。

ネイチャーポジティブの目標や取り組みは多々ありますが、一番分かりやすいのが

「2020 年を基準年に、2030 年までに生物多様性の損失を反転させ 2050 年までに完全回復させる」目標です。

大変立派な目標ですが、、生物多様性を守るための国際枠組みは、地球とその生態系との関係を再構築することを約束していますが、まだまだ掛け声だけで軌道に乗っていない状況です。

温暖化防止のための再生可能エネルギーへの切り替えは、風力発電も太陽光発電も山や森林を破壊してしまうという本来の目的を見失った方向へ向かってます。

果たして、本当に自然再生が実現出来るのか？危惧の払拭は出来ませんが、他に希望は見い出せません。

佐賀県支部の取り組み

佐賀県支部では既にネイチャーポジティブを実践しています。

- ① コウノトリ繁殖支援活動・・・食物連鎖ピラミッドの頂点の高次消費者コウノトリが繁殖生息出来る環境を整えることで地域の生物多様性の拡大に寄与。
- ② コアジサシ繁殖支援活動・・・絶滅の崖っ縁にある鳥の、明日を握ると言っても過言ではない活動です（2024 年の巣立ち数は 57 羽と少ない数でしたが、全国の巣立ち数の 20%にも当たります）種の保全復活に大きく寄与しています。



- ③ ツル分散化事業・・・越冬環境の創出と種の保全。
- ④ ビオトープ事業・・・こちらはコウノトリの餌場造りを目的の事業でしたが、思わぬことが起きました。一つはニッポンバラタナゴ純血種の保護池としての活用、二つ目は5年前に佐賀では絶滅した水生植物トチカガミやトリゲイトモ、ミズオオバコの復活（シードバンクからの軌跡の復活）が見られ、水生昆虫も増えています。



トチカガミ
20年前は普通にどこでも見れた浮葉植物

※ 野鳥だけでなく、広く生物多様性を守る活動もしています。
このような取り組みが、今後は脚光を浴び重要性が認められる時代になります！？

今、人類は大きな分岐点にいます。
このまま破壊を続けて終焉を迎えるのか、復活を果たし繁栄を続けるのか、決して大きな主語ではありません、現実です！

「2025年自然完全復活！」高齢化の進んだ私達野鳥の会会員で、どれだけの人が「自然完全回復」した世界を見れるかは分かりませんが、ネイチャーポジティブ具現化に向けて取り組むことは出来ます！ 孫子の時代の希望に向け、野鳥の会佐賀県支部一丸となって頑張りましょう。私達、1人1人の意識が、取り組みが、待ったなしです！

※ 記事内の図表は環境省、日本自然保護協会(NACS-J)及び世界自然保護基金(WWF)のWebサイトからお借りしました。



各地の探鳥会報告



■東よか干潟（大授搦）探鳥会報告（佐賀市）

①【日 時】 2024年9月23日

【参加者】会員19名（案内役：田中丸雅雄、加藤芳隆）

【観察された野鳥】シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ハマシギ、オバシギ、キリアイ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、アオサギ、ダイサギ、クロツラヘラサギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ショウドウツバメ、ツバメ（24種）

【案内役より】

4月以来久しぶりの東よか干潟での探鳥会です。連日の猛暑日も終わり、最高気温も 28℃となり、暑さも少し和らぐ。満潮時の潮高 5.0mと低く、水際が遠い。水際にはアオアシシギが採餌。夏羽が残るツルシギ。夏羽から冬羽に移行中のダイゼン。中央部に移動して、柵の近くにシロチドリ、メダイチドリ、トウネン、キリアイを観察する。西の水際にクロツラヘラサギが首を振って餌を採る。久しぶりのシギ・チドリに皆さん満足していました。

②【日 時】 2024 年 10 月 6 日

【参加者】会員 16 名 (案内役：田中丸雅雄、加藤芳隆)

【観察された野鳥】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ハシシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、オオハシシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、マガモ、ハシビロガモ、コガモ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ミサゴ、トビ、ヒヨドリ、ハクセキレイ (33 種)

【案内役より】

10 月になるが朝から暑い。水際は遠いが手前にはシロチドリ、メダイチドリが採餌中。中央部に移り、採餌に忙しいツルシギ、黄色が鮮やかなムナグロの幼鳥。終了間際にハジロコチドリ、オオハシシギ。暑さのため早めに鳥合わせを行い、終了する。

③【日 時】 2024 年 10 月 20 日

【参加者】会員 19 名、非会員 2 名 (案内役：橋本 泰博、加藤 芳隆)

【観察された野鳥】シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、トウネン、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、オオハシシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、クロツラヘラサギ、ダイサギ、トビ、ミサゴ、カワウ、ツバメ、ハクセキレイ、モズ(声)、ジョウビタキ(声) (32 種)

【案内役より】

今はほとんどのシギ・チドリが冬羽になり、地味でみんな同じように見えるので、種類の判別が難しく、慣れない人には興味がわきにくいだらうと思われた。しかしスコープを持参した会員が多かったおかげで、特徴を詳しく見せることができ、冬羽のシギ・チドリにも興味を持って貰えたようでとても良かった。メダイチドリ、オバシギが多くなっていて、アオアシシギが減っていた。また、東与賀の特色であるズグロカモメやツクシガモは姿を見なかった。また、アオアシシギ、コアオアシシギ、ツルシギの特色ある採餌行動が見られて良かった。

④【日 時】 2024 年 11 月 17 日

【参加者】会員 14 名 (案内役：宮原 明幸、加藤 芳隆)

【観察された野鳥】シロチドリ、ダイゼン、ハマシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモ、ダイサギ、ハシビロガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、トラフズク、ハクセキレイ、モズ、シロハラ、ウグイス、ニシオジロビタキ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、ハシブトガラス（28種）

【案内役より】

どんより曇ってますが寒くはありません。干潟で越冬する鳥達は全部出揃っていました。この日は潮が高く、満潮1時間前にはフェンスを越え、雨も落ち出したので引き上げます。後背地の干潟公園にはニシオジロビタキが入っているとの情報が有り、そちらへ移動。干潟ばかりスポットが当たる場所ですが、思わぬ鳥に出会えました。これからは、干潟と後背地セットの探鳥会も面白いですネ！

■巨勢川調整池探鳥会（佐賀市）

【日 時】 2024年10月13日

【参加者】会員19名（案内役：島田 洋）

【観察された野鳥】カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ノスリ、チョウゲンボウ、オオバン、キジバト、ドバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス（32種）

【案内役より】

10月も中旬なのにまだ暑さを感じます。晴天。9時過ぎ観察開始。池には鳥の影はほとんどありません。池がやたら広く見えます。池の縁に釣り人の姿。このせいもあって鳥たちが姿を見せないのかなと思いました。歩きつつ観察していると、ようやく草陰から鳥たちが池に出てきました。意外といろいろ出てきます。カルガモが最多ですが、マガモやオナガガモ、ホシハジロなど、さらにトモエガモまで出てきました。池のそばの樹木の枝に猛禽。チュウヒです。広いヨシ原にはエサも豊かなのでしょう。橋本さんが前方の上空を指さします。「ノスリとチョウゲンボウ」池の外には田んぼが広がっています。稲刈りのコンバインの後ろにダイサギやアオサギが並んでいました。最高気温が30度に達する秋の観察会でした。猛禽が5種類も登場するなどして楽しい時間を過ごすことができました。

■非会員様限定バードウォッチング 開催報告

■森林公園探鳥会（佐賀市）

【日 時】 2024年10月27日

【参加者】会員7名、非会員6名（案内役：島田 洋）

【観察された野鳥】カイツブリ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、

キンクロハジロ、ミサゴ、バン、タゲリ、コアアオアシシギ、イソシギ、キジバト、ドバト、カワセミ、コゲラ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アトリ、カワラヒワ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（30種）

【案内役より】

10月下旬というのに、暑い日が続きます。今回は非会員の方6名が参加されました。唐津市、福岡市、そして熊本県の阿蘇市からの参加です。小学生も二人いました。まずは、ヒヨドリの群れ。そして木立で何種類かの野鳥の声と姿。メジロ、コゲラ、ヤマガラの小さな混群でした。池にはマガモの群れ、キンクロハジロも1羽混じていました。アカミミガメが何匹も甲羅干ししています。観察者のすぐ目の前の路上にヤマガラが数羽出てきます。上を見上げると高いところにショウドウツバメの飛ぶ姿がありました。嘉瀬川にはマガモやヒドリガモ。タゲリの姿も2羽ありました。しかし、暑い。いろいろな野鳥を見ることができました。非会員の参加者も楽しんでくれたと思います。野鳥の会への入会を期待します。

■東よか干潟（大授搦）探鳥会（佐賀市）

【日時】 2024年11月3日

【参加者】 会員6名、非会員6名（案内役：田中丸 雅雄、加藤 芳隆）

【観察された野鳥】 ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、トウネン、ハシシギ、コオバシギ、オバシギ、エリマキシギ、オオハシシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアアアシシギ、アオアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ツクシガモ、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、アオサギ、ダイサギ、クロツラヘラサギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ミヤマガラス、ヒヨドリ（33種）

【案内役より】

東よか干潟での初めての非会員向け探鳥会です。シチメンソウ祭りと重なり、多くの人出でにぎやかです。好天に恵まれ、潮も干潟が50m残り、程よい。ズグロカモメも数を増やし、今季初のツクシガモも出現する。ノルウェーの愛鳥家の参加があり、図鑑を見ながらの説明をする。鳥たちを間近に見られ、初参加の皆さんも満足の様子でした。



～野鳥さが原稿募集中～

①詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。

②投稿・ご意見などをお寄せください。（編集部：馬場順一）

〒841-0053 鳥栖市布津原町61 A12-11 携帯：090-5084-2649

(Eメール) f_baba841@ybb.ne.jp





皆さんからのおたより



●「佐賀県内で伝承されてきた民話の中の野鳥達

～ききなし等地域とのつながりを中心に～ (2)・・・小副川 肇さん

【雀は米を食べられるが燕は虫しか食べられない由来】

佐賀市大和町 語り手 女性（大正3年生れ）

むかあし、雀とつばさ（燕）とおったちゅうわけ。

そいぎにゃあと（そうしたら）、お釈迦さんの死になさったけん、「お釈迦さんの亡くなんさったとけえ、はよ（早）う行かんば」て言われてね、雀は、もうおろたえて（慌てて）行くちゅうわけ。何でんせじいサツと行たて。そいけんね、「おまり（前）やあ、一番先い米ば食うて良か」て言われて、米ば食わるっごとなとって。

そいばってん、つばさはね、伊達者（お洒落）やんもんじゃいね、もう、ベン（紅）付けかね（鉄漿）付けて、洒落て行かすわけよ。そいもんじゃい、おそろしゅう暇のいらしたわけ。そいぎにゃあとは、「もう、お前のごたっとはね、お釈迦さんの死にぎわ（際）にも間に合わんごとして来たけんね、おまりやあ、虫どん食え」て言われて、つばさは虫食うごとなったて。

そいばあっきゃ（これで、おしまい）

※ 筆者が昭和57年9月に録音したテープからの聴き起こし

この話は、佐賀県だけでなく全国に分布している話です。佐賀が農業県であることもあり県内では採集数が多く、前回のコメントで触れた「蛙が雨の降る前に鳴く由来の話」の次によく聞かれる話です。なお、東日本ではお釈迦さんが親になっている話が多いようです。（コメント）

- ① この話の後に、多くの語り手が「だから、燕は『雀さんな、ええことよ、あたし（私）あ、虫食て、土食て、口あシーブイ』と鳴いて飛びまわる」と話してくれました。キキナシ（鳥の鳴き声を人の言葉に置き換えて聞く行為）の一種だと思えます。
- ② 語り手によっては、雀は、慌てていたのでお釈迦様の腕につまづいで、それ以来跳び跳ねるようになって歩くようになったとか、知らせを受けたのが炊事中で釜の炭を付けたまま出て行ったので、喉元や頬に黒い模様がついているのだとか、葬式のお棺（昔のもの）に燕の模様があるのは、お釈迦様が遅く来た燕に、罰として葬式があった時のお供も仰せつかったからなどと語られています。
- ③ この話は、お釈迦様の入滅する時、動物までもが集まっている様子を描いた「涅槃図」（お寺にあるもの）が基になっていると言われています。そのため、話の中には、雀と燕の由来だけでなく、「蛇が蛙を尻から呑むようになった由来」とか「蚯蚓が土用の暑い時、地面に出て焼け死んでいる由来」などの他の動物の話も付随しています。昔の人が、いかに身近にいた動物をよく観察していたかということの表れだと思えます。

※次回は、ホトトギスの鳴き声由来を取り上げる予定です。



●「カメラでウォッチング from “OUTI” Part13」

・・・小松 常光さん（唐津市相知町）

【お山の秋】お山は一足先に秋モードでした。

【アケボノソウ】この時期はアケボノソウが見頃でした。

【架け干し】山間部でも珍しい架け干し。足の沢山ある“一つ目お化け”にも見えます。昔、山の田んぼでは子供も手伝って『稲架掛け（はさがけ、はざかけ）』が大仕事で、強風で倒されると無残でした。（10/11）



お山の秋（榎原湿原）



アケボノソウ



稲の架け干し

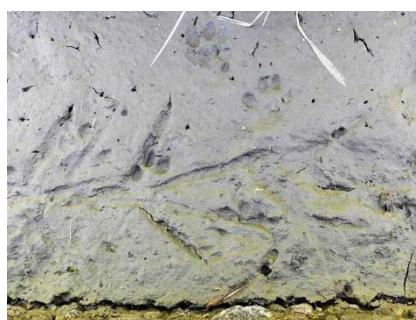
【アライグマの足あと】稲刈りする前にコンバインの入り口とか回転場所を鎌で刈り取る。枕刈り・隅刈りという。その時色々見つける。ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）を狙ってアライグマが来てるのも分かる。どの田んぼにも足形が残っているのでかなりの数が居るようだ。

【サギの足あと】鳥のサギもタニシを食べに来ている。（この写真の上の方にアライグマの子どもの足形が写っている。）（10/13）

【アナグマの子ども】今年生まれたアナグマ（ムジナ）も冬に向けて食べ物探しに夢中だった。（10/18）



アライグマの足跡



サギの足跡



アナグマの子ども

【アサギマダラ】今秋初めてアサギマダラが飛来。暑さが苦手なアサギマダラだから来ないかと思っていたが、とりあえず1頭確認。嬉しい。

【フジバカマ】アサギマダラを呼ぶ花。今年は不作。暑さのせいかな？？（10/23）

【ヒメカタイシ】晩秋に入るところ祖母がヒメカタイシと言っていた白い花が咲く。カタイシは方言でヤブツバキのこと。木も葉も実も花も小さいので「ヒメ」が付いているが、椿じゃなくて山茶花かも？？

【紅葉】当地の本格的な紅葉はまだ先だが、「予告編」で樹によっては色づいている。

【クロコノマチョウ??】落ち葉の中で姿を消すようにしている蝶を見かけた（画像の真ん中）。黒木間蝶ではなかろうか。道案内するように舞う。（10/31）



アサギマダラとフジバカマ



ヒメカタイシ



紅葉



クロコノマチョウ??

【シチメンソウ】佐賀県の有明海、東与賀海岸でシチメンソウが紅葉の時期でした。

別用のついでに立ち寄り、シチメンソウとシチメンソウのある風景を久しぶりに見えました。ヒユ科 1 年草の塩生植物だそうで世界的にも珍しいとか。背丈は 40~50cm くらいかな。ただ、環境変化のせいなのか、かつては自生していた所に生えていなかったり、明らかに枯れて無くなっている所も目につきました。（11/7）



シチメンソウとシチメンソウのある風景

【ホウジャクの吸蜜】蛾の仲間だそうで空中に停止して蜜を吸う。花に触れずに長い管（口吻）を出して蜜を吸う（別称：蜜泥棒）。羽の動きがやたらと早い。

（11/10）





皆さんからの野鳥&自然・生きもの情報



■加藤 芳隆さん（上峰町）

★今日の大授搦（東よか干潟）

【10月30日】シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、オオハシシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ
クロツラハラサギ34羽、ズグロカモメ（初認）、ユリカモメ、セグロカモメ、クロハラアジサシ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ ※シギチはほぼ冬羽に換羽してました。

【11月3日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、タゲリ、オオハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ハマシギ、オバシギ、コオバシギ、トウネン、キリアイ、エリマキシギ、ツクシガモ（初認）※11月のキリアイは稀。

【11月4日】11/3に確認出来たシギ・チドリに加え ミヤコドリ

【11月17日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、ミヤコドリ、オオハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ハマシギ、オバシギ、コオバシギ、トウネン、エリマキシギ、ズグロカモメ、ユリカモメ、セグロカモメ、クロツラハラサギ、ハラサギ、ダイサギ、アオサギ、ツクシガモ20羽、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ



ズグロカモメ



キリアイ



ツクシガモ



ミヤコドリ



ダイシャクシギ



ダイシャクシギ隊列飛行

★その他の地区

白石町

【9月29日】トウネン、エリマキシギ、タカブシギ、ツルシギ、ヒバリシギ、セイタカシギ、コガモ、カルガモ、マガモ、ハシビロガモ、トビ、スズメ、ツバメ、ショウドウツバメ、モズ

【10月6日】トウネン50羽、ヨーロッパトウネン、ウズラシギ、エリマキシギ、ツルシギ、イソヒヨドリ、カササギ、ハヤブサ、オオタカ、チョウゲンボウ、トビ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、ヒヨドリ、ヒバリ、ハクセキレイ

【10月12日】トウネン70羽、オジロトウネン、タカブシギ、ウズラシギ、タシギ、クサシギ、コチドリ、ヒバリシギ、クロハラアジサシ 6羽、カワウ、セイタカシギ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カルガモ、マガモ、ハシビロガモ、ヘラサギ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、モズ、ツバメ、ヒバリ、クサシギ

【10月20日】コウノトリ5羽 (JO141、JO133、JO544、JO774、JO432)

【10月27日】カリガネ2羽、マガン1羽、ヒシクイ2羽、カンムリカイツブリ1羽、チョウゲンボウ、モズ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、カワラヒワ

【11月4日】コウノトリ2羽 (ナルJO141、ツムギJO133)、カリガネ、マガン、ヒシクイ

【11月9日】オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、セグロカモメ、ユリカモメ、タゲリ、タシギ、トウネン、エリマキシギ、セイタカシギ、カワラヒワ、アトリ、モズ、ホシムクドリ、トビ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ハクセキレイ、ヒバリ、スズメ



オオタカ



コウノトリ



カリガネ



カワラヒワ



クロツラヘラサギ



ホシムクドリ

佐賀市大和町

【10月14日】オシドリ、イソヒヨドリ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ヤマセミ、カワセミ、カワウ、アオサギ

【11月9日】カワセミ、ヤマセミ、セグロセキレイ、キセキレイ、カルガモ、ヒヨドリ、シロハラ、エナガ、シジュウカラ

上峰町鎮西山

【11月10日】ヒヨドリ、メジロ、コゲラ、シロハラ、ソウシチョウ、シジュウカラ



カワガラス



オシドリ



ヤマセミ

■ハ木 ひとみさん (佐賀市)

10月20日【東よか干潟】オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、オバシギ、ダイゼン、コアジサシ、クロツラヘラサギ



シチメンソウとオオソリハシシギ



オバシギ



クロツラヘラサギ隊列



コアジサシ



つぶらな瞳のダイゼン



チュウシャクシギ

10月20日 【白石干拓】 コウノトリ（ナル夫婦）、オオソリハシシギ

11月3日 【白石干拓】 タゲリ、ホシムクドリ、チョウゲンボウ



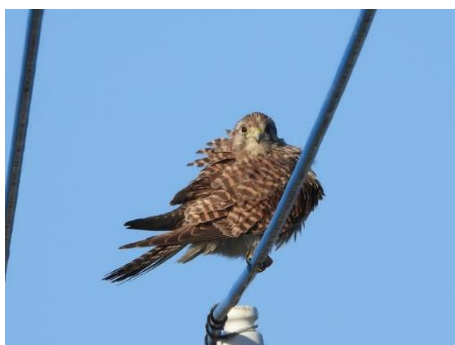
オオソリハシシギ



コウノトリ・なる&つむぎ夫婦



タゲリ



チョウゲンボウ



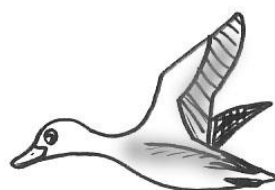
ホシムクドリ

■秀島 泉さん (多久市)

11月10日 【鳥栖市民の森】 コジュケイ 4羽

鳥栖市民の森での探鳥会終了後、コジュケイ 4羽と出会いました。終わって探鳥会の道をたどっていていた矢先でした。1羽（多分成鳥）が飛び出してすぐに藪に入りました。あとから来ていたかみさんがあと3羽（幼鳥でした）いるよと教えてくれたので待っていると次々と飛び出してきました。なんせ幅50センチぐらいの道を横切ったのですから目にも止まらずでした。

最後の1羽は飛んで藪に入りました。（写真は3羽目の出てきたところ）



● 近隣地区の探鳥会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■日本野鳥の会 福岡支部 (参加費：会員 100 円 一般 300 円 中学生以下無料)

- 福岡市西区今津：12/1 (日)
- 福岡市和白海岸：12/8 (日)
- 筑紫野市天拝山：12/15 (土)
- 春日市春日公園：12/3 (火)
- 福岡市大濠公園：12/14 (土)
- 福津市久末ダム：12/22 (日)

■日本野鳥の会 筑後支部 (参加費：会員&高校生 100 円 一般 200 円 中学生以下無料)

- 小郡市花立山：12/1 (日)
- 久留米城址～筑後川：12/22 (日)
- 筑紫野市山神ダム：12/15 (日)

※探鳥会の日程、場所は変更されることもあります。

上記以外にも、月例探鳥会(福岡支部)や企画探鳥会(筑後支部)が実施されています。

お問い合わせは各支部のHPへ 福岡支部 <http://hachikuma3.blog.fc2.com/>
筑後支部 <https://wbsj-chikugo.org/>



有明海の満潮時刻 (六角川観測塔)



※潮高 5m以上、午前 7 時頃から 12 時頃に満潮を迎える日時を掲載しています。

	時 刻	潮高 (m)		時 刻	潮高 (m)
12月1日	9:19	5.1	1月1日	10:32	5.1
12月2日	9:58	5.1	1月2日	11:08	5.2
12月3日	10:36	5.1	1月3日	11:42	5.1
12月4日	11:12	5.0	1月4日	12:15	5.1
12月13日	7:24	5.0	1月13日	9:17	5.0
12月14日	8:21	5.2	1月14日	10:02	5.1
12月15日	9:15	5.3	1月15日	10:39	5.2
12月16日	10:04	5.3	1月16日	11:10	5.2
12月17日	10:48	5.2	1月17日	11:36	5.1
12月18日	11:26	5.1	1月29日	9:41	5.1
12月31日	9:52	5.0	1月30日	10:19	5.3
			1月31日	10:54	5.4

満潮時刻と潮高をたしかめてから行こう！

■ 東よか海岸 (大授搦)
潮高 5.0m 満潮の2時間前くらいがベスト！

■ 鹿島新籠海岸他
潮高 4.0m 満潮の1時間前後がベスト！

満潮時には、残された干潟に鳥が集まり、近くで見やすい状態になります。

ただし、小潮だと遠すぎるし、大潮になると干潟が水没してしまって、鳥が移動してしまいます。





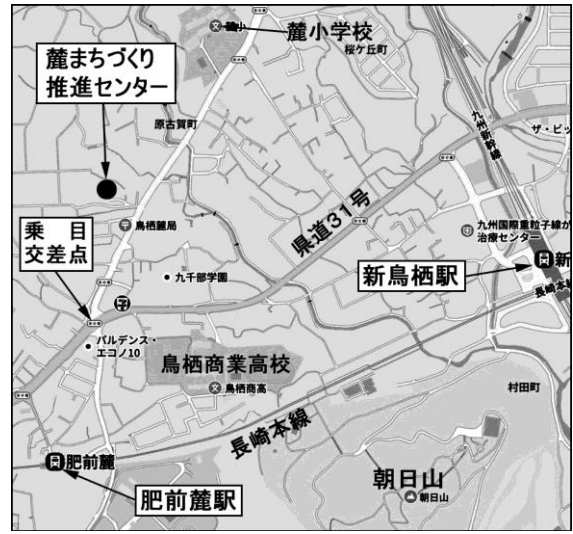
探鳥会会場までの案内

交通手段が無い場合は、担当者までご連絡！

①12月1日 佐賀市・巨勢川調整池



②12月7日鳥栖市・麓まちづくり推進センター



③12月15日 佐賀市・東よか干潟



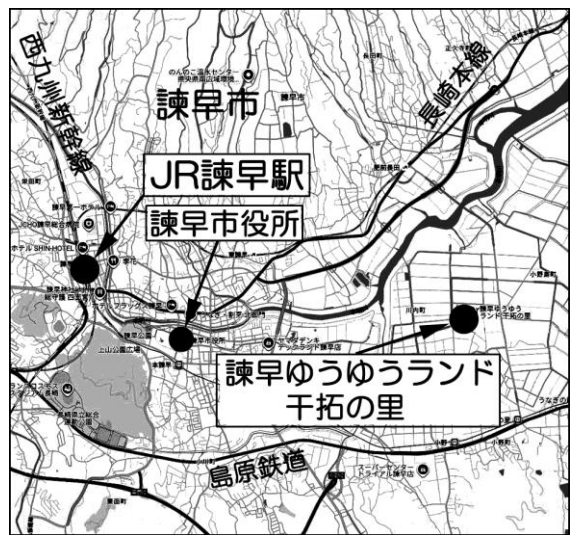
④2025年1月2日 鳥栖市・朝日山



⑤1月19日 武雄市・宇宙科学館周辺



⑥1月26日 諫早ゆうゆうランド 干拓の里





探鳥会などのご案内

(2024年12月～2025年1月)

① 12月1日(日)

巨勢川調整池探鳥会(佐賀市)

[時間&場所] 9:00 佐賀市金立町 巨勢川調整池内の東名(ひがしみょう)縄文館駐車場
[担当] 島田 洋さん(佐賀市) 090-2393-1286
[見どころ] 調整池で冬を過ごす「カモ類」や「ホオジロ類」、それを狙う「タカ」の仲間を観察します。

② 12月7日(土)

鳥栖市・麓公民館 探鳥会(鳥栖市)

[時間&場所] 9:00 鳥栖市山浦町の鳥栖市立麓まちづくり推進センター駐車場
[担当] 橋本 泰博さん(みやき町) 090-8833-6130
[見どころ] 里山で冬を過ごす小鳥たちを観察します。

③ 12月15日(日)

東よか干潟(大授搦)探鳥会(佐賀市)

[集合] 9:00 佐賀市東与賀町田中の東よか干潟展望台
[担当] 田中丸 雅雄さん(佐賀市) 080-1707-9225
加藤 芳隆さん(上峰町) 090-4510-1560
[見どころ] 干潟で越冬する「ツクシガモ」「ズグロカモメ」たちを観察します。数年前から「ソリハシセイタカシギ(アボセツ)」も越冬隊に参加中。

④ 2025年1月2日(休)

朝日山 お正月 探鳥会(鳥栖市)

[時間&場所] 9:00 朝日山公園入口駐車場
[担当] 橋本 泰博さん(みやき町) 090-8833-6130
[見どころ] 毎年恒例・新春バードウォッチング、朝日山公園で過ごす冬の小鳥たちを観察します。

⑤ 2025年1月19日(日)

宇宙科学館周辺 探鳥会(武雄市)

[集合&場所] 9:00 宇宙科学館近くの武雄温泉保養村駐車場(ペンション ピクニック隣り)
[担当] 馬場 清さん(嬉野市) 090-1084-3852
[見どころ] 宇宙科学館周辺の冬の小鳥たちを観察します

⑥ 2025年1月26日(日)

諫早・チュウヒ観察会(諫早市)

[時間&場所] 後日連絡します。
[担当] 橋本 泰博さん(みやき町) 090-8833-6130
[見どころ] 「諫早干拓地」で越冬する「ツル」や「猛禽」を観察します。
※現地までは乗り合わせて向かいます。参加希望の方は「お問い合わせ」よりメール または、
宮原支部長(090-2507-7085)へ1月10日までに連絡ください。雨天中止。

探鳥会のお問い合わせは、佐賀県支部 web サイト(ホームページ)の「お問い合わせ」よりメール、又は 宮原支部長の携帯電話(090-2507-7085)へ連絡して下さい。

共通事項

- ① 参加費(資料代、保険代) 佐賀県支部会員 100円 非会員は 300円
- ② 雨天中止。(前夜 18:55 のNHK 天気予報で降水確率 50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ～日本野鳥の会佐賀県支部 会報～
公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
電話 03-5436-2620(代) FAX 03-5436-2636

日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸 (☎ 090-2507-7085)
事務局：島田 洋 (☎ 090-2393-1286)
支部 web サイト <https://www.yacho-saga.org/>